

実施計画事業名		高齢者社会参加・生きがいつくり事業		評価対象年度	平成 23 年度			
評価担当部署		生活福祉部介護高齢課		課長(主幹)名	山崎 智			
総合計画体系	分野	2	保健・医療・福祉					
	政策	3	支え合いだれもが安心して暮らせるまちづくり					
	施策	2	高齢者福祉を推進します					
	関連施策							
現状と課題	高齢者の人口の増加にともない、事業の対象人数も増加している一方で、老人クラブ数の減少や敬老会を開催しない町内会も増えている。地域の中で自らの経験と知識を活かし、社会参加する機会の拡大を図ることを支援することが必要である。							
目的	高齢者と地域住民の交流機会の増加や、社会参加により、高齢者が生きがいを持ち、健康でいきいきとした生活を送れるようにする。							
5ヶ年展開の施策	①敬老祝品及び敬老祝金の支給 ②町内会の敬老会行事への助成 ③高齢者社会参加活動事業(市内バス等の利用を支援) ④高齢者入浴支援(公衆浴場等の利用を支援) ⑤老人クラブ活動への支援(単位老人クラブ、連合会) ⑥老人福祉センターの運営							
成果指標	名称		単位			22年度	23年度	25年度
	(設定できず)				目標	-	-	-
	説明			実績	-	-		
活動指標	名称		単位			22年度	23年度	25年度
	高齢者入浴支援事業利用者数		人		目標	24,000	24,000	24,000
	説明	1年間に利用した高齢者の延べ人数		実績	25,390	18,539		
	老人福祉センター登録者数		人		目標	220	220	220
	説明	毎年3月末現在		実績	225	261		
	老人クラブ加入率		%		目標	23.1	22.6	21.8
	説明	老人クラブ会員数(稚老連4月末現在会員数) / 高齢者人口(9月末現在) × 100		実績	20.5	19.4		
					目標	-	-	-
	説明			実績				
事業費の実績		単位	22年度 (決算)	23年度 (評価年度決算見込)	24年度 (予算)	備考		
	直接事業費(A)	千円	80,066	77,434	78,230			
	国庫支出金	千円	0	0	0			
	道支出金	千円	1,492	1,419	1,262			
	起債	千円	0	0	0			
	その他	千円	0	0	0			
	一般財源	千円	78,574	76,015	76,968			
	この事業にかかる職員数	人/年	0.46	0.47	0.47			
人件費(B)	千円	3,124	3,268	3,268				
計(A+B)	千円	83,190	80,702	81,498				
状況変化	実施計画当初(平成21年～)からの状況変化 高齢者社会参加活動事業(市内バス等利用支援)は、3年毎に利用実態調査を実施し事業の見直しを行なっている。平成20年度の調査結果に基づき、22年度、23年度は事業費を削減した。23年度実施している利用実態調査の結果を基に、24年度は検証を行い、25年度から3年間の事業を見直す。							

【1次評価】

成 果	成果指標の単年度の目標値は達成できたか(単年度の目標値がない場合は、長期的な目標値を達成できそうか予測) a a 目標達成 b ほぼ目標どおり c 目標達成できず(目標値と大きな差がある)
	<cの場合は、なぜかを分析して記入する> この事業の目的である高齢者と地域住民の交流機会の増加や社会参加については、定着しており目標は達成している。 高齢者入浴支援事業については、平成23年10月31日で梅の湯が廃業したことによる減である。
細 事 業 の 構 成 ・ 進 め 方	細事業の改廃や新規細事業の必要性はないか b a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する> 入浴支援事業については、市内の公衆浴場事業者が後継者不足や施設・設備の老朽化等による廃業で1か所のみとなり、全廃も危惧される。自家風呂を持たない高齢者に入浴の機会の提供や健康保持、精神的なやすらぎを与えるためにも必要な事業であり、公衆浴場の問題は全庁的な問題として検討が必要となる。
	各細事業の進め方について、市民との協働、他団体等との役割分担の見直し、環境への配慮など、改善の必要性はないか a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
コ ス ト 効 率	無駄なコストが発生していないか、投入した予算や人員に見合った効果が得られているか a a 問題なし b 改善の余地がある <bの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
総 合 評 価	A 概ね問題なし <A~C判定を受けての今後の方針、問題点に対する改善策などを記入する> 65歳以上のうち8割を超える方が介護保険の介護認定を受けていない元気な高齢者である。今後も、元気な高齢者にその知識と経験を活かした社会の担い手として活躍できる機会の創出など多様な社会参加を支援する必要がある。

【2次評価】

成 果	a	細事業の構成	b	細事業の進め方	a	コスト効率	a
総 合 評 価	A 概ね問題なし <2次評価者の視点からコメントを記入する> 1次評価のとおりとする。						

【内部評価委員会】

意 見	
--------	--